真剣であればノータッチ、ノーチャット

昨日、年に一度の教育長訪問がありました。感染症予防の取り組みが続く中で、北中の生徒や職員が授業や日常生活で頑張っている姿を教育長が確かめる訪問です。教育長からは美しい環境の中で落ち着いて授業に取り組んでいる様子をたくさん褒めていただきました。

その中で、一年B組の理科の授業に特に注目が集まりました。「物質が水に溶けるとはどういうことか」を追究する授業で、中心は一人一人が実験を行うことでした。

第二理科室に入る前から妙に静かでした。生徒の声も教師の声も聞こえてきません。ノートをとっているのかなと思いながら理科室を見ると、生徒たちがそれぞれに動いている姿が目に飛び込んできました。

参観した時は実験中でした。しかも、グループ隊形になっていながら、実験は一人で取り組んでいます。仲間と協力して一つの実験を行うのではなく、一人一人が自分の実験に取り組んでいるのです。

感動したのは、その時にだれも言葉を発していなかったことでした。黙々と実験を進める生徒たち。聞こえてくるのは、実験をするときに発生する音だけです。一心に取り組んでいる生徒の表情は真剣そのもの。笑顔はありません。個人実験ですので話し声もありませんでした。

正面の黒板を見ると、片隅に「ノータッチ（接触なし）、ノーチャット（おしゃべりなし）」の文字が書かれていました。生徒たちはそれを心がけて実験に取り組んでいたかもしれませんが、私にはその逆に見えました。

一年B組の生徒は、自分がやるべき実験の目的や内容が確実に理解できており、それに真剣に取り組んでいました。真剣に物事に取り組む人間からは、むだな動きが消え、言葉もなくなります。私はまさにそれだと感じました。私だけではなく、参観者全員が彼らの姿に感心したようでした。

時と場にふさわしくない行動や、意味のないおしゃべりが生まれているときには、真剣さが足りないときだと考え、自分を律するきっかけにしてみてはどうでしょうか。一気に自分を変えることができなくても、気付いたら変える努力をしていく。中学時代はまさにそういうときだと思います。

（十月一日　記）